# 務局だより 2020 • 11 • 15

示現会と団体展

0 美術の窓 掲載文

00 1>日本を代表する作家楢原健三 2>コロナに負けずに

74回示現会展に向けての準備が始まりました。現在のコロナ 感染の状況では、今までのようには行きません。計画が決まり次 順次お知らせしていきます。

「美術団体の現在」ということを特集した美術雑誌「美術 の窓」で取り上げられた示現会関係の記事を転載いたします。是 非一読ください。

「美術団体展 私た

「美術の窓」という美術雑誌をご存じでしょうか。9月号での現在」とい特集が組まれました。現在の美術団体の現状や、ち美術団体で活動している人たちにかかわる問題などを取り上げた内容になっています。その中で成田理事長始め井上事務責任者・佐藤常務理事の言葉が掲載されました。更に、示現会の創立に携わった楢原健三先生を取り上げた高島 穣先生(目白美術館館長)の記事ありますので、併せて今回の事務局だよりでお知らせいたします。

### 示現会の歴史

示現会は、1947(昭和22)年、 石川寅治を代表とする31名の作家によ り発足した洋画団体である。

東京が焼け野原の中、東京都立工芸 高等学校内に事務所を置きスタートし、 翌年には上野の東京都美術館で第1回の 公募展を開催した。それから70年、会 員数720名、六本木の国立新美術館で春に公募展を開催し、2万人強のお客様に見ていただくように成長した。

全国に15の支部をもち、14の会場で巡回展を開催するまでになった。 (美術の窓より)

繁栄しているのか結 る。示現会も創立であ つあるのか、ますます 列する公募展形式を 集し、入選作品を陳 般作家から作品を募 が必ずしも公募展で あり、衰退していきつ じられていることで 展の是非は昔から論 ている示現会展は、 はないが、私が出品 とっている。その公募 年を優に超えた。周 りには、100年を 超えた団体も多く いことなのか。若 みられる。果た 術団体展すべて

### リロ ( ) では、私の師匠でもあるは、私の師匠でもあるは、私の師匠でもあるは、私の師匠でもある 今年で73 ました。 三上知治先 生方もお元気で、 を合わせて自前の会館 創立会員の先生方は力 展覧会の後には親しく りでした。 んど顔を揃えていて、 年も前の第20回展の折 私の示現会初出品は50 おります。 れて創立した示現会も 当時は創立会員の先 太平洋画会から分か 年目を迎えて 、ほと

会員達の課題となって て社会の中でどう生か る会館を、美術を通 が残された遺産であ 変な事と感じていま していくかが残され め年齢層も上がり、

成田禎介

と誰もいなくなってしの先生方は気がつく んの努力で発展を続き支部が生まれ、皆さ での間に、各地方にも まいました。自分も含 ものと感じていた先輩 いつも当たり前にいる 15 支部が生まれ、 けて来ました。ただ、 今に至ります。これ

の手助けとなる手段 れぞれの創作の意欲をけにはいきません。そ 団体展は中止を余儀続いています。多くの きるか、検討を重ね、 現在の状況の中でどの 事な役目を持つていま 上を目指す作品制作 高め、研鑽を深め、向 残念な思いです。 中止となりました。 現会も本展、巡回展も なくされ、私どもの示 新しい研究会は ように研究会を実施で も た作品を発表できない しかし、立ち止まるわ ことは言葉にならない 美術団体として大 年かけて制作してき とどまることなく コロナウイルス感染 直接

どの諸事情で参加に二のらは年齢、費用、日程ながあり、特に地方の方か方法は予想以上の参加 指導を受けられるとい足を踏んでいた方からも、 す。集約したものをプロして 用意してもらいま めていくかは大事な課 ならない中、会として存いスと共存しなければ ができました。高齢化が うことで好評を得ること れに対して指導を行う ジェクターで投影し、そ 真の紙焼きか データと 方法を取る事 と思っています。 た。 それぞれの作品を写 意義をどのように み、さらにコロナウィ ま

## 

美術団

体

現

の高齢化はどこの団 貴いことであったかを知当たり前のことがなんと 1回、自分の1年間の成果脆く力を失うのか。1年に 新型コロナウイルスで人 それもコロナ禍前の贅沢 者、と嘆いていた。しかし 営にかかわる人力も高齢 る作者も高齢者、会の運 年までは、 が抱える課題である。昨 なのに発表の場を失った。 を美術館で問うという極々 類の文化、文明がかくも 覧会がやれない。絵描 な悩みであった。肝心の展 層の公募展 、展示されてい 会員 武

7月17日から始まったリモート研究会は9月27日で計画された 3回が終了しました。地方からは出かけることが難しいので今 回の研究会は助かりました、という声が多く聞かれました

1月から新たな研究会が始まります。ぜひ大勢の参加をお待ち いたします。

今回の研究会でいくつか気になったところを上げてみます。

写真の写りが良くないこと。

出来るだけ外で、日陰を選んで撮影するのが良いのです が、室内の場合は、光線が偏らないよう、光るところがない ように注意することが大切です。

○ 注意書きをよく読んでいないこと USBの扱い、返信封筒の切手、送り先等、間違え ている人がいました。

風景画の巨人 楢原健三

<示現会設立理念> 油絵、水彩画、版画に関する堅実な研究及び創作を奨励し展覧会を開催して、広く一般の鑑賞に資すると共に、後進の育成を図り、もって我が美術の発展に寄与することを目的とする。 もって我が国

この理念を生涯追い続けた創立会員の楢原健三先生。その作風は大胆な筆さばきをもとに現場を追うという作風は、油彩の醍醐味を余すことなく私たちに示してくれています。まさに示現会の理念そのものともいえます。

り、楢原は生涯にわたって藤島への作品制作に於ける揺るぎないの作品制作に於ける揺るぎないの作品制作に於ける揺るぎないの作品制作に於ける揺るぎないの作品制作に於ける揺るぎないのがいる。「デッサンの大神で藤島は楢原にデッサンの大神のである。 山の出身で府立一中(日比谷中)、楢原は生涯にわたって藤島へらが画家の道を進む事は母親がらが画家の道を進む事は母親がらが画家の道を進む事は母親を亡くしている。自を嗜む母親を亡くしている。自ををいに受ける。東京美術学校ではあった。東京美術学校では影響を与えた唯一の画家であい、楢原は生涯にわたって藤島へり、楢原は生涯にわたって藤島へり、大きなどりる。藤島は楢原は生涯にわたって藤島へいたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道を歩いたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の道といいたが、画家の出身で府立一中(日比谷中の出身で府立一中(日比谷中の出身で府立一中(日比谷中の出身でありませんだ。 学)に在籍していたが、画家山の出身で府立一中(日比楢原は 一九〇七年、東 である。 の絵 「大胆な画面構成と詩 画の魅力は、一 年、東京青 言で

持つ風景画の巨人力、詩情を伝える描写力楢原健三ー大胆な画面構: を成

筆頭に挙げられるのは楢原健三久馬と並ぶ傑出した存在として

本の洋画史に於いて鈴木千

を概観した時、私たちは昭和を 中心に活躍した二人の巨人、鈴 赤千久馬と楢原健三の名前を 三は示現会という、自らが設立 に深く携わった会派の指導的 立場にありながら、共に同時代 の洋画界に於いてひときわ傑 出した存在であった。 木千久馬と楢原健三の名前を中心に活躍した二人の巨人、鈴を概観した時、私たちは昭和を明治に始まる日本の洋画史 治に始まる日本の洋画はじめに

る」という藤島の教えを楢原流で解釈した一つの答であった。楢原は、画面に近景、中景、遠景原は、画面に近景、中景、遠景原は、画面に近景、中景、遠景原は、画面に近景、中景、遠景を敢えて取り込み、作品全体をを入る」という藤島の教えを楢原流 画史に於ける最高傑作のひとつ出来栄えであり、私は、日本洋本作品はそれらの中でも出色の 次の言葉の中にあ ンタビユーで発したントは楢原があるイ けたのか。その答のヒ であると確信する。楢 ように思える。 ここまで人を惹きつける絵を描であると確信する。楢原は何故 1、兎に角、いつ 黒える。 「僕」葉の中にある 原のそのような 裏に焼き

全てを支配す

「お堀端の灯」1983年 練馬区立美術館蔵

のを

描いているだけ

たのである。 込めて絵画として完成させ 

写力で「詩情」まで を独自の感性でで普通 品のモチーフを素材か おき、比類なき選び を独自の感性で作の表材か は変で描っている。 はきで揃っている。 はきで描っている。 

でも一 もので、

番目に その

の中でも

合

ならはらけんぞう 1907年東京市赤坂区生まれ。東京美術学校で藤島 こに師事。30年在学中に帝展初入選。戦後は示 現会の創立に参加、理事長を務めた。 58年日展 会員。81年日本芸術院賞、88年日本芸術院会員。 93年勲三等瑞宝章受章。99年逝去

それに追従する立場甘んじるしが本家本元であり、日本は私たちは油絵というと西洋 しめるべき価値を有 模倣することから始まった。 が私の変わ 洋の絵画を輸人、日本の洋画史は していると

当けずに

千葉大学講師) 千葉大学講師)

高島

穣

なかなか収束の気配を見 せないコロナの状況です が、みなさんさん負けずに 頑張りましょうね

皆さんお元気でしょうか。写真は我が家のベランダから見える風景です。夏真っ盛り、河原でバーベキューをする人出が戻ってきました。コロナ禍ですが、土日ともなれば賑やかでは、それを眺めつつ、私は母の介います。それを眺めつつ、私は母のいます。そらら絵画制作で日々を送っています。とられてくる初孫の笑顔の写真を見るのが楽しみですわ

吉田 真(東京·準会員)



屋久杉が描きたくて、初めて屋久島に登り油絵具を弾く 雨の中、無我夢中で描いてるうち…嵐になった。慌てて 雨の中、家族と山を下った時には洪水のような勢いる いりまかっで、家族と山を下った時には洪水のような勢いる り!愉しく又恐ろしい思いをした!再び苔の森、ぬお前様 水峡の長いトシイルの出入り口辺りで…物言わぬお前様 水峡の長いトシイルの出入り口辺りでも世界遺産 と向かい合いとんなに目を凝らして観察しても世界遺産 と向かい合いとんなぎて…私を見下ろしせせら嗤うがかり 屋久杉は逞しくますぎいたらもう一度訪れたい! …。コロナ禍が落ち着いたらもう一度訪れたい! …。一) 荒木ずんば (東京・会員)

下絵です。 私の住む地域では、7月に集中豪雨がありまし たが、その後はほとんど雨が降らず猛暑の日々 が続いています

コロナの感染者も急増し、熊本県の警戒レベル も4に引き上げられたため、夏休みに入った子 供たちと一緒に、ほぼ引きこもりの様な生活を しています。今は展覧会などの再開の日を心待 しています。今は展覧会などの再覧にしながら、作品の制作をしてい ます。

鎌田雅臣(熊本·会員)

添付画像について 奥が制作小屋になります。外出できな い子供の為にプールを置いています。

